

平成28年8月4日
国立大学法人広島大学

報道機関 各位

国立大学法人広島大学
理事・副学長（社会産学連携担当）
高田 隆

個人情報の漏えいの可能性について

本学大学院社会科学研究所の教員が研究室にて使用しているパソコン1台から、マルウェアが原因と思われる暗号化された通信が、外部の同じ宛て先 IP アドレスへ断続的に送られていました。

当該教員が不審なメールと思わず、送られてきたメールの添付ファイルを実行し、マルウェアに感染したものと思われます。

当該パソコンには、本学の卒業生や元教員、学会関係者等の氏名、住所、電話番号、メールアドレス、計437名分の個人情報を保存したファイルが含まれていました。

現時点で、本件の個人情報が第三者に流出したという情報や不正に使用された事実は確認されておりません。

該当者の皆様には、7月29日付けで書状をお送りし、お詫びと状況説明をいたしました。

本学においては、情報セキュリティ及び個人情報についての意識啓発や指導を継続して行ってまいりましたが、一層徹底して行ってまいります。

1 事実経過

- (1) 平成28年6月末から7月初め頃に、大学院社会科学研究所の教員が研究室にて使用しているパソコン1台から、マルウェアが原因と思われる暗号化された通信が、外部の同じ宛て先 IP アドレスへ断続的に送られていました。
- (2) 現時点で、本件の個人情報が第三者に流出したという情報や不正に使用された事実は確認されておりません。

2 個人情報の内容

本学の卒業生や元教員、学会関係者等の氏名、住所、電話番号、メールアドレス
437名分

3 該当する卒業生等に対する情報提供

該当者全員に対して、7月29日付けでお詫び状と状況説明の文書を送付させていただきました。

4 再発防止に向けた今後の取組

- (1) 本学では、在学生・教職員への情報セキュリティ教育を進めて参りましたが、個人情報管理に関する不十分な現状を重く受け止め、再度、個人情報の管理の徹底について、教職員に対して注意喚起を行いました。
- (2) 7月中に、教職員に対し、自身が使用するパソコンのウイルス対策ソフトを含めたソフト等を常に最新版に更新し、定期的にウイルスチェックを実施するとともに、少しでも猜疑のあるメールの添付ファイルは決して開かない旨注意喚起・周知徹底を行いました。
- (3) 教職員を対象とした、情報セキュリティ研修会を、学外講師を招いて、9月21日と10月6日に実施いたします。更に、学内の講師による情報セキュリティ研修会を例年より回数を増やし、9月7日と9月13日に実施することにしました。

なお、個人情報保護の観点から、卒業生及び関係の皆様方の個人情報に配慮した内容となっていますことを、ご理解いただきますようお願いいたします。

【本件に関する連絡先】

広島大学 社会産学連携室 広報担当副理事 山内 雅弥 TEL (082) 424-6017
